

<前回>オリエンテーション・導入

授業スケジュール

前期：初期キリスト教から古代キリスト教

オリエンテーション——キリスト教思想史について

1. キリスト教の成立と初期キリスト教
2. キリスト教の制度化と初期カトリシズム
3. ヘレニズムのユダヤ教
4. グノーシス主義
5. キリスト教教父 1 ——使徒教父、弁証家
6. キリスト教教父 2 ——オリゲネス、アレクサンドリア学派
7. キリスト教基本教理の形成
8. キリスト教の国教化
9. キリスト教教父 3 ——アウグスティヌス
10. 研究発表・角元 6/30
11. 研究発表・岡田 7/7
12. 研究発表・長岡 7/14
13. 研究発表・山本 7/21
14. 研究発表・金 7/28

<キリスト教の国教化>

(1) 公認・国教化の意義

1. キリスト教の公認と国教化：4世紀、キリスト教の転換点（迫害、公認、国教化）
2. 政治的秩序と宗教的秩序の相補性
3. 政治的要請としての「正統一異端」論争
宗教的要因との関連性の問題
多様性を保持しつつ、異端との対応で徐々に正統教会へ
4. 三位一体論の意義

- ・国教会＝正統教会の基盤となる教理→その後のキリスト教世界の基礎
- ・独裁的絶対的な神理解への批判契機（モルトマン）、多様性の保持

(2) 国教化の帰結

5. 国家神学・政治神学としてのキリスト教神学
「神学」：キリスト教の発明ではない。古代ギリシャ起源。
ストア哲学の神学区分（アウグスティヌス）：
キリスト教による「神学」の変革：キリスト論の意義
6. 「国家の神学」を組み込むことによって、キリスト教神学の成立過程は完了した。
7. 絶対平和主義（軍隊の宗教性）から正戦論（アウグスティヌス）へ、そして聖戦論へ。
8. アウグスティヌスの「神の国」論
9. 現代の問題：キリスト教と公共性

国教会体制後の政治的状況で、なおも、正戦論にとどまるのか。
国民国家・民族主義を超えた普遍性の実現を試みるのか。

↓

下からの公共性、ネットワークとしての公共性

9. キリスト教教父 3 ——アウグスティヌス

(1) 時代と伝記的事項

1. 西方教会（ラテン世界のキリスト教→ローマ・カトリック教会とプロテスタント教会

の共通のルーツ)における最大の教父(354-430年)、西方教会の基盤の形成。

古代末期=中世草創期、ヴァンダル族の足音(アウグスティヌスの死後、一年足らずで、ヒッポの町は、ヴァンダル族に占領される)

2. 若きアウグスティヌスと回心

聖人アウグスティヌスの放蕩時代?

13才(367年):タガステ(故郷) → マダウラ

16-17才:カルタゴ(学生時代)、或る女性と出会い・同棲、マニ教に接近

18才:息子誕生(アデオダートゥス)

29才(383年):ローマへ

30才(384年):ミラノへ(国立大学教授)

31才:母モニカ、ミラノへ。女性との別れ(アフリカへ、修道女となった?)

ミラノでの回心

33才(387年):モニカの死

34才:故郷へ

36才(390年):息子アデオダートゥスの死

37才(391年):ヒッポ・レギウスの司祭(396年から司教)

43才(397年):『告白』執筆開始(400/401年に完成)

アンブロシウスの死

3. アウグスティヌスと二人の女性:母モニカと同棲の女性(妻)

人間性=両義的存在

通説ほど、人間は単純ではない

母の両義性:聖女?あるいは悪女?

母マリア

母と妻の板挟み

↓

原罪とは、アウグスティヌス自身の問題であった。

妻との別れ → 空しさ

「空しさを埋めようとする空しい努力」「いっそうの空しさ」

神の恩寵のみがこの空しさからの救いを与えることができた

4. 「7:15 わたしは、自分のしていることが分かりません。自分が望むことは実行せず、かえって憎んでいることをするからです。16 もし、望まないことを行っているとすれば、律法を善いものとして認めているわけになります。17 そして、そういうことを行っているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。18 わたしは、自分の内には、つまりわたしの肉には、善が住んでいないことを知っています。善をなそうという意志はありますが、それを実行できないからです。19 わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている。20 もし、わたしが望まないことをしているとすれば、それをしているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。21 それで、善をなそうと思う自分には、いつも悪が付きまとっているという法則に気づきません。22 「内なる人」としては神の律法を喜んでいますが、23 わたしの五体にはもう一つの法則があって心の法則と戦い、わたしを、五体の内にある罪の法則のとりこにしているのが分かります。24 わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。死に定められたこの体から、だれがわたしを救ってくれるのでしょうか。」(ローマの信徒への手紙)

(2) 哲学

4. 認識論・懐疑論

・マニ教への疑問と懐疑思想

キケロの影響(『アカデミカ』、新アカデミア派)

キリスト教思想研究入門——古代から宗教改革

賢者は、すべてをそのままに信じるのではなく、疑わねばならない、人間の認識も判断も主観的、相対的、不確実であり、普遍性や絶対性をもたない。「彼らはすべてについて疑うべきと考え、いかなる真理も人間をとらえない」（『告白』5, 10, 19）。

↓

人間は蓋然性に満足して生きるべきである。

- ・『アカデミア派批判』、確実に存在するもの → 『自由意志論』
自己の存在、物的存在、数学・論理学・哲学などの根本原理
Si fallor, sum.

↓

いかにして真理を認識するか？

聖書解釈

↓

5. 言語論

- ・修辞学の教師
- ・聖書解釈、説教者（会衆との対話の姿勢）
- ・『キリスト教の教えについて』
聖書解釈の基本的概念 → 西欧の言語理論の源泉
記号と事柄

記号：自然的記号、意図的記号。記号→解釈→事柄

事柄：享受 (frui) と使用 (uti)

神

聖書解釈の原理としての愛

愛の秩序 (ordo amoris、神への愛、隣人愛、自己愛)

聖書の教え、教会の教理、信仰箇条は愛を目的とし、この目的に即して解釈されなければならない。

↓

教義的解釈、アレゴリカルな解釈（イエスの譬え解釈）

(3) 神学、異端との論争

6. 創造論・時間論

- ・反復された創世記注解の作業
二つの創造物語の解釈：可知的人間と可感的人間の二重創造説
- ・時間：創造論→宇宙論的時間、創造の前？
内的意識→意識的時間・魂の広がり (distantio 延長性、分散)
記憶、直観、期待。過去・現在・未来
アリストテレスとアウグスティヌス、カントとフッサールという時間論の系譜。
リクール『時間と物語』（全三巻）新曜社。

↓

人間に内在する三一性：存在する・知る・意志する、
神の像である人間の内なる神の三一性の投影あるいは残像（類比）
記憶、知解、意志

7. 自由意志論、原罪と恩恵論

- ・なぜ、人間は欲する善を行わず、欲しない悪を行うのか（パウロ、人間の謎）
意志に対する情欲の優位、意志の転倒性、転倒の習慣化、罪による分裂

↓

この意志の分裂を統一させてくれるものは、神の恩恵のみ。人間が自力で為し得る

- ことはない。パウロ→アウグスティヌス→ルター
- ・ペラギウス論争
 - 人間の自由意志の観点からのアウグスティヌスの恩恵論への批判。
 - 山田望
 - 『キリストの模範 ペラギウス神学における神の義とパイディア』教文館。
8. 神の国と歴史神学
- ・ドナティスト論争
 - sacramentの有効性をめぐる論争（事効論と人効論）
 - 迫害によって教会を裏切った聖職者の sacramentは有効か。
 - 教会の聖性（聖なる教会）とは何か。
 - ↓
 - 厳格主義者としてのドナティスト。再洗礼を主張。
 - ↓
 - 一連のカルタゴでの教会会議、第9回（404年6月）
 - アフリカのカトリック教会は、問題解決のために国家権力の介入を要請。
 - ・教会論：善悪の混合体としての教会
 - 教会は聖なるものであるが、現実の教会は完全な聖性を有していない。悪や罪を内にもっている。教会の聖性は構成メンバーの聖性ではなく、 sacramentと聖霊による。
 - ↓
 - ・歴史的現実と終末
 - 歴史の規定する二つの原理、神の国と地の国
 - 歴史的事実とは、この二つの原理の混合
 - 神の国としての完成はただ神のわざによって実現する。「神が人類を教育して、その終極目的に達せしめる過程が歴史である」（金子、331頁）

（4）キリスト教徒として生きる

9. 地の国と神の国の間
- 地上での信仰生活：二つの法則（二つの国）が信仰者の内でせめぎ合う
10. 「共に生きる生活」（ボンヘッファー）
- 神の前に一人で立つ
 - 信仰の仲間との交わり
 - モニカ、或る女、アンブロシウス

<参考文献>

1. 『アウグスティヌス著作集』教文館、『神の国』『告白』岩波文庫。
2. 石原謙『キリスト教の源流』岩波書店。
3. 山田晶『アウグスティヌスの根本問題』創文社、『アウグスティヌス講話』新地書房。
4. 金子晴勇『アウグスティヌスの人間学』創文社。
5. 金子晴勇編『アウグスティヌスを学ぶ人のために』世界思想社。
6. 宮谷宣史『アウグスティヌス』講談社。
5. 片柳栄一『初期アウグスティヌス哲学の形成』創文社。
7. 加藤武『アウグスティヌスの言語論』創文社。